

第 113 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	受取手形
売掛金	未収金	満期保有目的債券	仮払法人税等
備品	売買目的有価証券	委託販売	消耗品費
受託販売	積送品	固定資産売却益	未払金
備品減価償却累計額	売上	有価証券評価益	有価証券利息
有価証券売却益	還付法人税等	支払利息	減価償却費
追徴法人税等	仮受金	有価証券売却損	固定資産売却損

1. 上井商店は、阿多商店より販売を委託された商品(売価 1,000,000 円)および、自社の商品(売価 500,000 円)を、梅北商事に売り渡し、代金のうち半額を現金で受け取り、残額は掛けとした。
2. 朝比奈商店は、平成 20 年 7 月 12 日に、額面総額 1,000,000 円の社債(利率は年 3%、利払日は 4 月末および 10 月末)のうち半分を、@99.00 円で売却し、代金は端数利息とともに当座預金に振り込まれた。なお、この社債は、平成 20 年 6 月 1 日に@98.50 円で売買目的のために購入したものである。端数利息は売却日までの日割りで計算する。
3. 榎岡部商事は、過年度分の法人税等について更正を受け、税金の還付額 500,000 円が当社の当座預金に振り込まれた。
4. 井伊商店では、デスクトップパソコン 200,000 円および、プリンターのインク代 10,000 円の支払いのため作成した 2 通の小切手が、決算日現在、未渡しであることが判明した。なお、当店は、これらの小切手を作成した際に、当座預金の減少として処理していた。
5. 関口商店(年 1 回、3 月末決算)は、平成 20 年 6 月 30 日に備品を 3,000,000 円で売却し、代金のうち半額を現金で受け取り、残額は翌月 10 日に受け取ることにした。この備品は、平成 19 年 4 月 1 日に購入(購入代価 3,900,000 円、直接付随費用 100,000 円)した固定資産であり、残存価額は取得原価の 10%、耐用年数は 9 年、償却方法は定額法、記帳方法は直接法によっている。当期分の減価償却費も月割計算により合わせて計上すること。